

第5526号

第3種郵便物認可

技術士提案で補完者の役割を

技術士会中国上下水道部会講演会 下水道3D化や水道災害対応紹介

日本技術士会中国本部
上下水道部会(部会長)
若岡信利・シエインール
西日本コンサルタント企
画総務本部営業部営業推



永禮教授



若岡部会長

進捗調査役(広島市水道局OB)はさきごろ、今年度の講演会を広島市内で開催した。全国上下水道コンサルタント協会



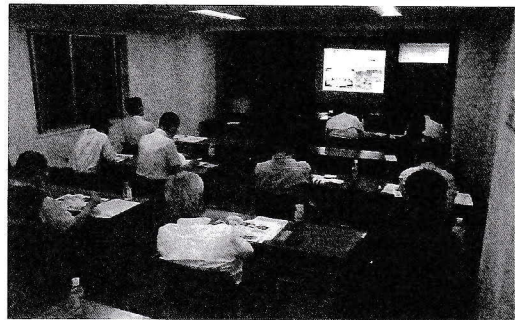
平賀係長



倉本事業管理審議役

中国・四国支部との共催で、7回目の今回は講演3題が行われ、広島会場とウエブ中継5会場(岡山・津山・島根・近畿・富山)、技術士会東京統括本部からの個人配信を含めて合計約140人が聴講した。

今回は新型コロナウイルス感染症対策として、各会場の定員を半分程度に抑えて実施。広島会場では約30人が聴講し、若岡部会長は「いずれの講演も興味深く、示唆に富んだ内容。貴重な知見を



広島会場では30人が聴講

得て自己研鑽を」などとあいさつした。

永禮英明・岡山大学学術研究院環境生命科学学域教授の基調講演「これからの地方の水インフラ」では、将来的な課題として、水道は全用途に對して同じ水質基準、下

水道は資源回収型や抗生物質対応プロセスへの転換などを挙げ、「水道・下水道事業は今後、新技術などを提案する『補完者』が求められており、その役割を果たせ得る技術士への期待は大きい」と強調した。

倉本喜文・日本下水道事業団事業管理審議役兼西日本本部事業管理室長は「日本下水道事業団におけるBIM/CIMへの取り組み」と題し、BIM/CIM(3次元モデル化による設計・施工・

維持管理の効率化)など、ICTを活用したモデル事業や検証を説明。「BIM/CIMの適用は、データ共有や指針など技術・制度両面での整備とともに、今後は数量計算やコスト削減などを目指すことが必要」と指摘した。

平賀学・広島市水道局技術部設備課浄水係長は「広島市水道事業におけるリスク対応策」として、配水池容量14時間分の確保や飲料水兼用型耐震性防火水槽の設置など、同市の取り組みを紹介。平成26年8月と30年7月の2度の豪雨災害を踏まえ、防水壁の設置による施設の浸水対策や、法面補修による土砂災害

対策などで、水道のより高い安全性の確保に取り組む姿勢を示した。